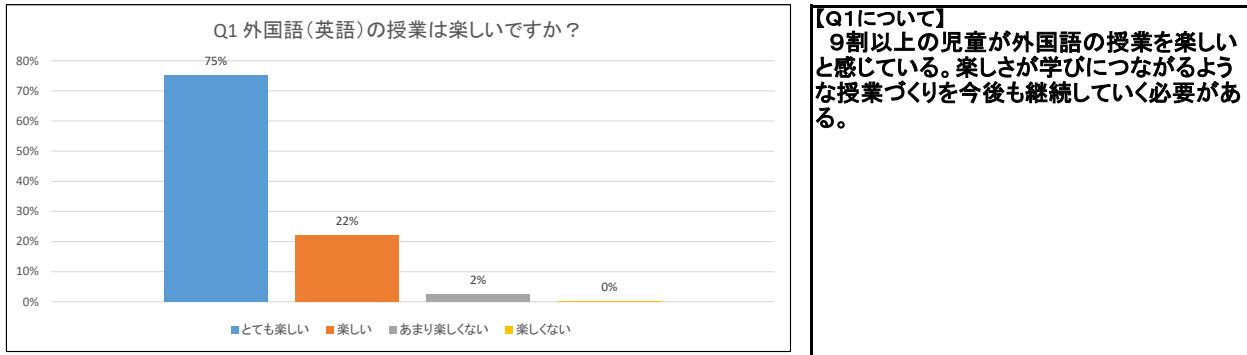
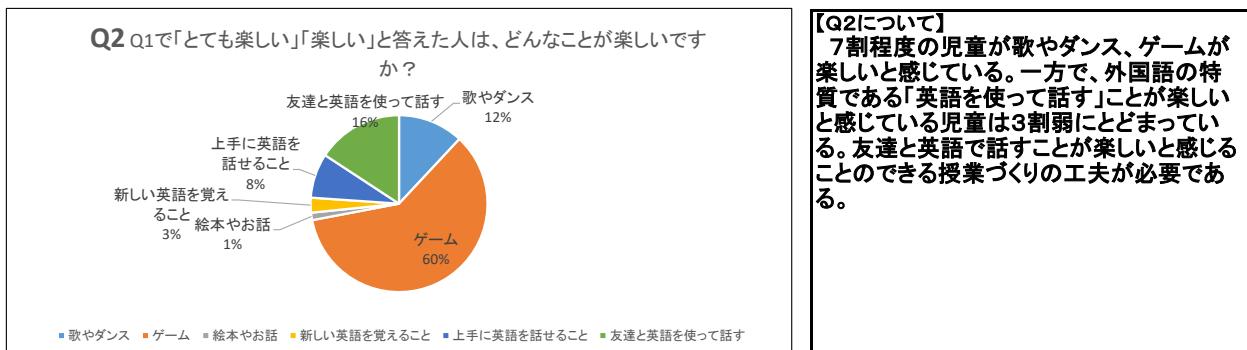


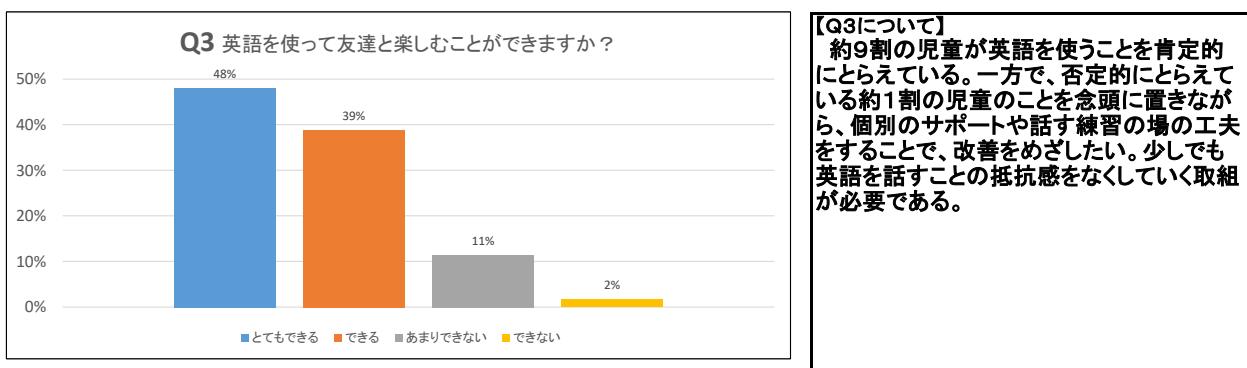
令和6年度外国語(英語)の授業に関する児童用アンケート調査結果の分析・考察(豊福小)



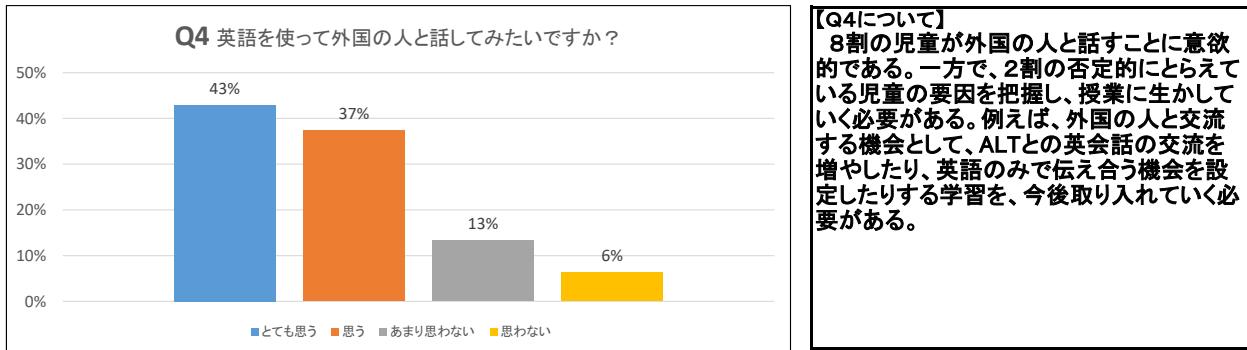
【Q1について】
9割以上の児童が外国語の授業を楽しいと感じている。楽しさが学びにつながるような授業づくりを今後も継続していく必要がある。



【Q2について】
7割程度の児童が歌やダンス、ゲームが楽しいと感じている。一方で、外国語の特質である「英語を使って話す」ことが楽しいと感じている児童は3割弱にとどまっている。友達と英語で話すことが楽しいと感じることのできる授業づくりの工夫が必要である。



【Q3について】
約9割の児童が英語を使うことを肯定的にとらえている。一方で、否定的にとらえている約1割の児童のことを念頭に置きながら、個別のサポートや話す練習の場の工夫をすることで、改善をめざしたい。少しでも英語を話すことの抵抗感をなくしていく取組が必要である。



【Q4について】
8割の児童が外国の人と話すことに意欲的である。一方で、2割の否定的にとらえている児童の要因を把握し、授業に生かしていく必要がある。例えば、外国の人と交流する機会として、ALTとの英会話の交流を増やしたり、英語のみで伝え合う機会を設定したりする学習を、今後取り入れていく必要がある。

【保護者・学校関係者からの意見・要望等】
子供たちは、楽しく英語を学んでいることが伝わってきます。間違いを恐れることなく前向きに英語を使ってほしいと思います。グローバル化が進んでいくと思いますので英語に関する学習の機会を維持していただければと考えます。

【考察・今後の展望等】
英語を楽しいと感じている児童が多い。「英語を使って外国人の人と話してみたいですか？」の問い合わせに対して、8割の児童が肯定的に捉えていることから、例えば、同年代同士の国際交流の機会を設けると、実用性のある教育に繋がり、話すことへの抵抗が減るのではないかと考えることができます。